

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ならけんりつうねびこうとうがっこう				②所在都道府県	奈良県	
26～30	①学校名	奈良県立畝傍高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	第1学年 402名 (男 189名、女 213名) 第2学年 402名 (男 198名、女 204名) 第3学年 397名 (男 200名、女 197名) 計 1201名		
普通科	402	402	397		1201			
⑥研究開発構 想名	奈良発！“未来”を“創造”するグローバル・リーダー育成プログラム							
⑦研究開発の 概要	<p>大学や国際機関、企業と連携し、海外交流校と協働しながら、生徒がグローバルな課題の研究に取り組むとともに、UNWTO や奈良県が県内で開催する国際会議で研究成果を発表、運営補助にも携わる。3年次には、海外交流校の生徒及び県内で学ぶ留学生を招いて、高校生の国際会議「未来創造会議」を生徒自らの手で開催し、3年間の学習成果を踏まえた提案・議論を行い、宣言を採択することによって、文化や言語が異なる人々と幅広い視野に立って問題解決を図ることができる、使命感と実行力のあるグローバルリーダーの育成を目指す。</p>							
⑧ 研究開 発の 内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標 使命感と実行力をもつ国際人の育成を目的とし、主体的な課題研究の結果、課題解決のために自主的に行動を起こすことができる人材を育てる。さらに、海外に目を向け、将来的に留学や国際的な活躍を望む生徒の増加を図る。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 意欲や好奇心はあるものの、社会との関わりや体験が少なく、受け身の姿勢で、自ら課題解決に向かおうとする生徒が少ない。また、留学する生徒が少なく、近畿圏の大学への進学が大多数を占めるなど、内向き指向が強い。そこで、大学（早稲田大学、神戸大学、奈良女子大学）や国際機関（UNWTO 国連世界観光機関）と連携し、学校設定教科「グローバル研究」を通して専門的な研究内容と研究手法を学び、フィールドワーク等の活動を通して、3領域の課題研究を実施する。その際、年齢の近い連携大学の学生や大学院生にも少人数をきめ細かく指導いただくことで、生徒の意欲と好奇心をさらに高めることができると考える。さらに県内で行われる国際会議において、インタビューや発表、運営補助などの機会を設けることで社会との関わりを増やし、生徒の学びをより実践的なものにできると考える。そして3年次には、自分たちが企画・運営、提案をし、海外交流校の生徒や留学生など外部から参加者を招く「未来創造会議」を開催して研究課題に関連した「未来を創造するための3つの行動宣言」を採択する。このような活動を通じて、本校が考えるグローバル・リーダーとしての資質（表現力、対話力、情報活用能力、責任感、創造力、企画力）の育成を図ることができると考える。</p> <p>(3) 成果の普及 地域にも開かれた研究発表会の開催、県内の高等学校教科等研究会における研究発表や、国際会議における発信、中学生や保護者を対象とした学校説明会において生徒による活動報告を実施する。また Web ページを通じての研究報告や活動内容を発信する。さらに3年次までのフィールドワーク等を通じた探究活動の成果をもとに、「未来創造会議」において採択した「行動宣言」に従って「行動計画」を策定し、地元地域や交流校と協働して具体的なアクションを実施していく。</p>						
		<p>(1) 課題研究内容 3つの研究課題領域においてそれぞれ1つ、計3つの研究課題を設定する。</p> <p>領域1：観光・歴史遺産 テーマ：「古都奈良の魅力を地元経済の発展にどう結びつけるか～UNWTO と連携した研究」 奈良県内には世界遺産をはじめとした数多くの歴史遺産があるが、観光客数が伸び悩んでおり、県内での宿泊者数は大変少ない。外国人訪問客数や宿泊者数の増加に向けて UNWTO や県観光プロモーション課等と連携し、身近な歴史遺産を観光資源として活用し世界に向けて PR する方法を海外交流校との共同研究を図って探究する。UNWTO 等が主催する会議に参加し、発表やインタビュー等を通して世界各地の同様の取組や課題を研究し、県内自治体とも連携しながら奈良の魅力を世界に発信する冊子を作成し、新しいツアーを地元観光産業と連携し実施することを検討する。</p> <p>領域2：国際協力</p>						

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>テーマ：「奈良に住む私たちができる、国際援助・交流・連携に関する考察」</p> <p>奈良県は南部や東部を中心に過疎化や少子化が進み、学校の児童生徒数の減少や医療施設の不足に伴う問題が深刻化している。一方、途上国をはじめ海外でも人口のアンバランスに伴い、その質を維持する困難さが課題となっている。この課題に対し進んだ研究を実施している大学との連携や、海外交流校と ICT を利用した共同研究を実施するとともに、県内自治体の取組も研究しつつ解決に向けての提案を作成する。また、国際会議等での発表やインタビュー等を通して、高校生としてどのような行動ができるのかを考察し、その成果を冊子やホームページなどを通じて世界に発信する。</p> <p>領域3：生命と環境</p> <p>テーマ：「古都奈良の環境を生かしたまちづくり～海外との比較研究を踏まえて」</p> <p>県内には、木材などを生かした歴史的景観を守る町並みが数多くあるが、伝統的な産業である林業は、グローバル化が進む産業構造の変化の中で低迷が続いている。奈良女子大学との連携の中で人間工学的な立場から見た住環境について、奈良町や今井町などのフィールドワークや地元 NPO 団体の取組の研究をしつつ考察するとともに、県内産業やインフラの課題について海外交流校とともに探究を深める。また、国際会議等での発表やインタビューを通して、グローバルな視点と科学的な視点から考察した結果を、世界にもアピールできる提案としてまとめ、冊子やホームページなどを通じて発信する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>【実施方法】：学校設定科目「現代へのあゆみ」及び「現代の課題」において、早稲田大学、神戸大学、奈良女子大学の3大学の教授により、3領域の課題に関する概論的な講義を実施するとともに、それらの大学の大学生や大学院生による指導を充実させる。さらに、受け入れた留学生とフィールドワークを実施し、観光や歴史遺産などの課題研究テーマについて討論したり、意識調査を行うなどしたりして課題研究の深化を目指す。また、県内にある国連世界観光機関から研究支援をいただくとともに、同機関主管の「OECD 世界観光統計フォーラム」において、課題研究成果の発表やインタビューを行う。また毎年1月に県内で行われる「東アジア地方政府会合」においても発表とインタビューを実施し、その後の課題研究に反映させる。また「SFU」では課題研究と関連した世界の時事に関する記事等を批判的に読み、「グローバル国語」ではそれらを題材に討論やディベート等を行い、「グローバル英語」では CLIL を導入すると共に課題に関してアカデミック・リーディング、ライティングやディベートを行うことで、課題研究や未来創造会議等を行うコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>【検証評価】：生徒に対しての授業アンケートを実施し、学習に自主的、意欲的に取り組んでいるかや、将来留学や国際的な舞台上で仕事がしたいといったキャリア意識の変化がみられるかについて結果を分析し、成果を検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>「現代へのあゆみ」(第1学年、3単位) 「世界史A」、「日本史A」(2単位)と「社会と情報」(1単位)を代替。 「現代の課題」(第2学年、3単位)「現代社会」(2単位)と「社会と情報」(1単位)を代替。 「グローバル国語」(第1学年、1単位)「グローバル英語」(第1,2学年、3単位) 「SFU」(第1学年、1単位)、「未来創造」(「総合的な学習の時間」の名称変更)</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p><u>各教科におけるアクティブラーニング</u></p> <p>ディベート等による言語活動の充実と生徒の活動を中心とした授業の実施により、学習意欲や主体性を育成する。授業アンケート等で検証評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程以外の取組内容・実施方法</p> <p>留学生の受け入れ、派遣の活性化、海外大学への進学奨励、海外修学旅行の実施等</p> <p>【実施方法】：留学生派遣のための学校独自基金の設立、海外交流校との留学プログラムや交流校訪問、「飛び立てぬ高生応援隊」設立、資格取得、各種コンテストや社会貢献活動への参加の奨励。</p> <p>【検証評価】：留学生受け入れ、派遣人数の変化、将来留学を希望する生徒数の変化、海外の大学への進学数、各種コンテスト、社会貢献活動への参加生徒数等の変化を検証。</p>
<p>⑨その他特記事項なし</p>	

ふりがな	ならけんりつ うねひこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	奈良県立畝傍高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	240人
	SGH対象生徒以外:	人	10人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 課題研究のテーマに関連し、社会貢献活動を行う機会を積極的に紹介、奨励し、30年度に対象生徒の20%達成を目指す。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	0人	2人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 留学生のための学校独自の基金を設立し、留学希望生徒を費用面で援助する。第2学年での有志生徒による交流校訪問を実施する。さらに2年目以降、交流校の数を増やす。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	%	15%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 3つの課題研究を通し、グローバルな問題の解決に果たせる個々の役割を認識させることで使命感を涵養し続け、30年度には対象生徒の90パーセントを目標とする。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	6人	10人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 校内にとどまらず、校外の高水準な大会に積極的に参加する生徒を育てることで入賞者数を増やす。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	32%	30%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: CAN-DO LIST の設定とGTEC受検により、明確な達成目標を示すことによって英語の4技能を伸ばし、SGH1期生が第3学年になる28年度には80%を目指す。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
--	------	------	------	------	------	------	------	-----------

国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合

a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	26%	25%	%	%	%	%	%	%

目標設定の考え方: グローバル30の大学で、従来から本校生が志望する京都大、大阪大、同志社大、立命館大に加え、SGHで連携する早稲田、上智大学などへの進学を奨励し数値を達成する。

海外大学へ進学する生徒の人数

b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	人

目標設定の考え方: 海外交流や海外研修をする中で視野を広め、海外大学への進学がひとつの選択肢であることを理解させ、数値を達成する。

SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合

c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%

目標設定の考え方: 連携大学と協力し、アドバンストコースを中心に課題研究を大学レベルに引き上げ、他の生徒への波及効果を広げる。全員に達成感を持たせる指導を行い数値を達成する。

大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数

d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	200人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人

目標設定の考え方: スーパーグローバル大学で行われている留学プログラム等を積極的に紹介し、また大学卒業後海外で働くことを視野に入れたキャリアデザインを指導し数値を達成する。

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 多くの生徒が国外研修に参加しやすいよう、経費の一部を補助することが可能な最大人数に設定。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	20人	人	人	人	人	人	300人
目標設定の考え方: 連携する大学を徐々に増やし、また課題のテーマに関連する事業を行う国際機関や、連携が可能な関連企業を開拓し、それらを訪問させることで数値を達成する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	6校
目標設定の考え方: 交流校と課題を共同研究し、また交流校に協力を仰ぎ、研究を高めるための英語文献などの資料入手等において、連携できる海外大学を模索していくことで数値を達成する。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	5人	人	人	人	人	人	45人
目標設定の考え方: 連携の大学より課題に関する指導を教員、学生に依頼。2年目以降にさらに研究の質を高めるために参画の回数を増やし、また新たな連携を開拓し数値を達成する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 連携大学とUNWTOとは課題全般にわたって協力する。また課題ごとに連携が可能な企業を開拓して増やしていき、それらより講師を複数回招聘していく。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	20人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方: 視野を広げ、高い目標に積極的にチャレンジする気運を高めることで、校外の様々な大会に参加する生徒を増やす。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	1人	0人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 連携幹旋団体等を通じ、長期および特に短期の留学生を積極的に受け入れる。次年度他の団体とも連携していく。課題研究の質を高め本校で学習するメリットを広報する。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	0回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 研究報告会の開催や、各種研修会において積極的に研究成果を発表する。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 世界に向けて情報発信することで、本校の広報と海外校との交流推進を目指す。								
月平均の図書館の図書貸出冊数								
j		200冊						400冊
目標設定の考え方: 様々な分野への興味関心を高めるとともに、主体的な探究心を養うことにより、読書量を増やす。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,199	1,202					1,200
SGH対象生徒数							1200
SGH対象外生徒数							0